



「なとと」座談会 5年目を迎えて

「なとと」は、今年5月に設立から5年目を迎えました。大切な節目として、8月31日に座談会形式で柴崎図書館館長と共同代表の3人から「なとと」へのそれぞれの思いを伺いました。

参加者 柴崎悦子図書館館長 増田祐子代表 篠原由江代表 島貫徹代表 進行：中山

進行：設立からこれまでに振り返って、または特に印象に残っていることなどありましたら、お聞かせください。

増田：図書館ができたのが、やっぱり一番の感激ですね。

館長：友の会「なとと」が新図書館の半年ぐらい前に設立したのは、感無量でした。今度は市民の皆さんと一緒に図書館を共同で運営していける体制が作れたなと思って、すごくうれしかったですね。

篠原：小野和子さんにお会いできたことが、本当に感激でした。近くでいろいろお話しもできたし、一生会えないかな、と思ってた方にお会いできました。

増田：行事では、ナイトライブラリーがよかったと思います。

館長：ナイトライブラリーは、新図書館ができたなら、是非やりたいイベントだったんです。以前から大人が楽しめる知的な内容でかつ地元の人を紹介できるものがやりたいなと思ってました。実現し、ジャンルもいろいろで面白いなと。やっている自分達が楽しんでいます。

進行：「なとと」の魅力って何だと思いますか？

増田：自分でやりたい好きなことが結構できていて、自分も楽しみながら皆と一緒に楽しんでもらうことです。

島貫：入会して初めてする図書館の活動が、全部が全部楽しくて、面白いですね。新しい行動の広がりやがすごく魅力的で、みなさんに是非「なとと」に参加してほしいですね。

館長：皆さんの立場からすると図書館の運営に関わることも魅力かも知れないですね。図書館を楽しみたい、サポートしたい等それぞれの思いで入られた皆さんは、一人一人性格違うし個性的。図書館というキーワードで、図書館が好き、本が好きということ繋がり、なんかいいですね。

進行：それぞれできる分野や良い点を生かし合っているとところもありますね。では、活動を通して見えて来た課題は、どんなものがありますか？

館長：設立して5年目、震災後のボランティア活動からも10年以上経って、やはり高齢化してます。この先どう持続させていくのかというのが一番の問題です。若い人にどう繋いでいくか。現時点ではすごくいい活動ができてますが、10年後の姿を考えた時、「なとと」がどう動いていけば持続できるのか。そこを私自身の課題として研究したいなと思っています。

増田：持続するために何をしたらいいか探していかないとね。

島貫：世代交代というか若い人が少しでもいいから入り、一緒に活動できればいいなと思います。



篠原：若い人達から見た要望や意見も聞きたいですね。

館長：今は徐々に若い人が会員になってますが、就職や子育て等で「なとと」から離れることもあります。いつかまた「なとと」に戻って来てくれればいいのですが、子育てや働いているうちはなかなか難しいですね。やってみようかなと思えるようなものがあれば、続いていけるのかなと。

島貫：図書館の魅力を知らない人に、是非来て、体験していただきたいです。夏休みの夜に図書館見学会等の探検や冒険とか子どもがわくわくするようなイベントを企画し、小さい時から保護者と共に図書館に馴染み、ずーっとファンクラブのように広まっていければと思います。

進行：今後「なとと」が若い人にどう繋げていくのかが、ひとつの課題ですね。最後に、これからの「なとと」の展望・展開などをお聞かせください。

島貫：今すごく楽しくて、心地いいのでこのまま続けていこうと。課題の若い世代へどう繋いでいこうかという気持ちはありますが、私自身は大満足してます。だから「なとと」に入って活動して貰えればすごく楽しいのがわかりますよ。

増田：私は小さい時から本が大好きで、本を借りたい、読みたいと図書館に関わっていきました。新刊もすぐ買ってもらえる図書館って良いなと思いながら過ごして来たんですね。今の子ども達も本が好きで図書館に来るんですね。だからその子ども達をどう引っぱって行くか。大人になっているんなことしながら、やっぱり図書館に戻ってくるようなものがあるといいのですが、それは一体何なんだろうなと思案中です。

篠原：「なとと」の世話人もやっと友の会ってこういうふうにするのだというのが納得でき、自分達から動こうという気になり、入り口に立てた気がします。これからです。少しずつ広めていかなければと思っています。

館長：私は「なとと」にもっと自主的に動けるようになってもらいたいという思いがあります。世話人さん以外の会員さんにもっと「なとと」のことを知らせ、魅力をどう伝えていくかをやっていきたいですね。今あるボランティア以外にも、自分達で率先してできることを見つけ、やりたい人たちが集まってかつ楽しむ。それが「なとと」の会員だからでき、良いところでもありますね。

進行：本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

(写真左から柴崎館長 篠原代表 増田代表 島貫代表)



第2回(7/12) 図書館の本で楽しもう！

～仙台七夕の七つ飾りを作ろう～

今回の図書館の本

「七夕飾りを作って遠くの孫に送ります」「ひとつひとつ飾りの意味が知りたい」「子どもの頃に家族と作った昔を懐かしんで」と、それぞれの想いを話されながら、慣れた手つきで次々と作り上げてゆく参加者の姿は、童心に返ったかのように楽しそう。



「仙台七夕浪漫」

古来より伝承される美しい祭り。その賑わいと技術が未来に続きますようにと、出来上がった小さな笹竹に祈らずにはいられない気持ちでした。

菊地ひろ子
菊地節子：著



第3回 (9/13) 図書館の本で楽しもう！

～初めての和綴じの本～

今回の図書館の本

世界に1つだけの「私の本」づくり。それが和綴じの本です。人気が高く、はじまる30分以上も前に会場入りの人も。お気に入りの葉書を持ち寄り、いよいよ作業開始です。講師の篠原代表の言葉を一言も聞き漏らすまいと、皆さん真剣そのもの。下拵えを丁寧に済ませ、仮綴じです。角裂を天地に貼り、表紙を整えて四つ目綴じと進めていきます。糸の始末をして完成。



「はじめての和装本」
府川次男：著
文化出版局

本の出来栄を前に皆さん、達成感に浸っていました。



♪わたしからあなたへ♪
本のバトン no.9
「短篇集モザイクより“みちづれ”」

鹿野 智子

海峡の下をくぐるトンネルが完成し、この連絡船はあと一と月足らずで廃止になる。

彼は花束とわからぬ様に紙ですっぽりと包んだ花を持ち乗船、と、自分とそっくりな包みを
持ち深く沈んだ老婦人を見た。

かつて、彼の肉親の一人が海峡に投身した。その墓参りも今回が最後となる。やがて海峡の
真中ほどになった。先に席を立った老婦人はなかなか戻らない。彼もいつもの船べりへ向かっ
た時「お先に・・・」重荷を下ろした安らぎに満ちたまなざしの老婦人には『みちづれを見る
様な親しみが感じられた』

作中に「プラットホームの一本がやけに長く伸びてその果てが連絡船の棧橋になっている」
という文章がある。が、自分もカニ族の真似をし、ホームの一本が長く伸びたその先にある別
世界を求め青函連絡船に乗った若かりし頃を思い出す「みちづれ」でした。



「完本短篇集
モザイク」
三浦 哲郎：著
新潮社：出版

★★6月～8月のナイトライブラリー★★

★6/24「私たちが望む未来＝The Future We Want＝」

ゲストのケンタロ・オノさんは、日本人で初めて『キ
リバス共和国』に帰化し、国に起きている温暖化による
水没の危機を止めるため、生の声を伝える活動をしてい
る方です。

高校留学を経てキリバスに留まり、2000年に帰化
し、現在は出身地仙台を拠点に国内外を東奔西走しています。この日もキリ
バスを実例に地球温暖化・気候変動の危うさ、追いつめられている地球の現
状の話に、息をつめ大きく頷きながら聴き入った会場でした。

そして最後に「愛の反対語は憎しみ・恨みではなく無知・無関心です」の
言葉で締めくくられました。

★7/29「あなたの知らない幽霊画の世界」



館腰にある弘誓寺住職正田運照さんに幽霊画に
についてお話していただきました。怖いお話だろう
か、と少々構え気味で参加したのですが、丁寧な
お話と所蔵されている幽霊画を鑑賞し、怖さは失
せ、魅了された時間となりました。

江戸時代からの幽霊画には四種あり、一つ目は商売繁盛や泥棒除け等の縁
起物、二つ目は物語の一場面を表現した物、三つ目は亡くなった人を偲んだ
物、四つ目は絵師としての力量を養うための物とに分けられるそうです。

幽霊画には、観る側の心を揺さぶる美しさ、儚さ、繊細さがあり絵画とし
て高い芸術性がありました。熱心な参加者が多く、終了後も質問したり、掛
け軸をじっと観入る姿が沢山みられました。

★8/26「J.S.バッハからの贈り物～厳選の200分の1～」

久しぶりのクラシックレコードコンサートです。
ご案内は、「バッハ」が大好きで、クラシック音楽
に造詣が深い、合唱団指揮者の吉田良さんです。会
場は、多くの「バッハ」好きの皆さんで埋め尽くさ
れました。

「管弦楽組曲 第3番二長調」よりアリア（通称
G線上のアリア）でスタートし、パイプオルガン、チェンバロ、ピアノ
など全8曲を鑑賞しました。曲間には、当時の時代背景や「バッハ」の
人柄、演奏者のこだわりなど多くのエピソードもお話し下さいました。
とても心地良いひとときのナイトコンサートでした。



♪でんごんはん♪

♪7月14日から8月9日まで、児童コーナーに飾
った2本の笹竹に584枚の願い事を書かれた短冊が寄せられました。
一人一人の願いが、どうか届きますように。

★これからのナイトライブラリー★

★9/30「笑って学ぶ 私はだまされない？
～かしこい消費者になるために～」

ゲスト村上 喜久さん
（名取市消費生活相談員）
「方言を語り残そう会」の皆さん

★10/28「落語会～としょかん寄席～」

ゲスト剋家清生（こっかせいしょう）さん
（東北学院大学落語研究会OB会）

★11/25「がんについて
あなたに知ってほしいこと」

ゲスト佐々木 治さん
（県立がんセンター副院長）

日 時 毎月最終金曜日 19:30～20:30
会 場 カフェコーナー
定 員 40名
参加費 会員無料 非会員 300円
申込み 図書館へ

♪ごあんない♪

いがらしみきお氏 講演会
～漫画を描きつつけること～

日 時 10月15日（土）14:00～15:30
会 場 増田公民館 ホール
定 員 100名
参加費 会員無料
非会員 一般500円 学生300円
申込み受付は9月15日から図書館へ

第4回 図書館の本で楽しもう！
～私だけの消しゴムハンコ～

日 時 11月8日（火）13:30～15:30
会 場 増田公民館 研修室
定 員 10名 参加費 材料費
申込み受付は10月25日から図書館へ

図書館まつり

日 時 12月3日（土）10:00～15:00
会 場 図書館 増田公民館
＊ブックリサイクル、ビブリオバトル etc

